

ヘルスケアミーティング 2023 を振り返って

林 浩司 (コアメンバー)

2023 年 11 月 3・4 日、昨年と同じく田町の建築会館にてヘルスケアミーティング 2023 が開催されました。

COVID-19 感染症も 5 類になって久しく、人々の往来もほぼ通常通りに戻りつつあるなか、締め切り前に会場定員 190 人が満員となり (オンライン参加は約 70 人) 懇親会では 90 人が集まり大変盛会に終わりました。また、当日は 11 月にも関わらず春のような陽気で、参加者は休憩時間に飲み物を買に行ったり会館中庭でくつろいだりと気持ちのいい 2 日間でした。

さて今回のヘルスケアミーティングは 2 つの大きな企画がありました。1 つ目はカリエスマネジメントの集大成ともいえるう蝕の活動性に焦点を当てた内容、もう一つは当学会が発足して 25 周年を迎えた歩みと今後の在り方を考える企画がありました。1 日目は「チェアサイドで実践するカリエスマネジメント」というメインテーマで、最初に杉山精一さんから当学会が取り組んできたカリエスマネジメントを紹介されました。次に、景山正登先生から「診療室で取り組む初期う蝕のマネジメント」という演題でう蝕の活動性を評価する方法やカリエスリスクをコントロールするプログラム等々、具体的な活動性について焦点を当てた内容の講演をいただきました。症例発表では、宇田川歯科医院の大嶋宏美さんとわたなべ歯科の佐藤千恵子さんから、歯科衛生士の立場からカリエスマネジメントの役割と方法、患者さんとの実際の関わり方について報告がありました。当学会では数年間に亘り病変を検出 (Detection) するための ICDAS や XR、カリエスリスクアセスメントとして患者さんとリスクを共有するための CRASP などを紹介してきましたが、さらに今回う蝕の活動性について理解を深めたことで明日からの臨床で大いに役立つ内容だったのではないかと思います。

さて一方、ヘルスケア歯科学会創設 25 周年記念事業として学会ホームページで特設ページを開設してアピールをしてきました。会員参加型のフォトコンテストや川柳などの募集を行い、当日会場ではご当地お土産コーナーや法人ブースのスタンプラリーを開催するなど例年とは違った企画で、記念式典を感じることができました。

2 日目午前では「四半世紀を経て—ヘルスケアの DNA を引き継ぐために」というテーマで前代表の杉山精一さん、現代表の高橋啓さんに登壇いただき当学会の 25 年の成果や受け継ぎたいこれからの診療スタイルなどの基調講演をされました。杉山さんからは設立総会の思いから現在までの当学会の歩み、またすべての患者データを採得し記録を残すことの重要性、各年代別の一人ひとりの症例を検証し振り返った発表がありました。これは IT 化が進み来院患者すべてをデータベースに記録して必要なときに臨床データの解析が可能になったことが重要だというお話しがありました。次に、それを引き継ぐ現代表の高橋さんからは臨床の基本治療を大事にして、正確なデータを残す意義をお話しされました。自分たちは日々臨床のなかで様々な患者データを採得していますが、規格性のある資料を残し成果は出ているか検証することが大切であり質の高い治療へと続くという内容は、自分も襟を正す思いで聴講しました。また古市貴暢さんの座長の下、秋元秀俊さんの忌憚のない質問に代表者お二人の真のヘルスケア DNA を引き出したのではないかと思います。当学会設立当時では 30～40 歳ぐらいの会員の方も、四半世紀を迎え次世代に継続していく現状のなかでこのようなメッセージは有意義だったと思います。

最後になりますが、このニュースレターで他の会員が報告・感想を紹介しているように、この企画以外に様々なテーマで 2 日間を通して多くの会員が発表して大変活気のあるミーティングになったと思います。またそれぞれ質疑応答では積極的な意見が会場からあり、久しぶりにこの様な演者・聴講者が一体となった活発な学会を開催することができました。

さて、来年のヘルスケアミーティング 2024 のメインテーマは初期及び中等度の歯周病に焦点を当てた企画が進行中です。さらに今後 30 年 35 年と続くであろう学会の発展に期待して、また皆様にお会いできることを楽しみにしていま

2023.12.18

す。